

ですか。県下の8市の市長会の会長でもあるし。やはり県が突出しているというのは、私は、決して褒めたものではない。それは県下、離島が一番多い、あるいは79市町村があると、そういうものも知事には思いがあるでしょう。しかし、だからと言って、全然、メリット、デメリットを真剣に検討もさせずに、やはり地域ごとにくくっていくということは、非常に将来を考えた場合には危険性があると私は思います。

その点で、市長が知事に対して、そういう頭を冷やしなさいといういさめの言葉も含めて、ちょっと答弁をしてください。

市長(伊藤一長君) 柴田議員の再質問でございますけれども、時間が残されておりませんが、私は、この合併のエリアの案をつくるときに、県から委嘱されて長崎大学の猪山先生が長崎市役所にお見えになったときに申し上げたんですが、私としては、中核市であるので、長崎市独自でもできますと、今後とも、できますし、そうしなければいけないという基本を持ちながら、しかし、合併をするんだったら、ある程度の合併をした方がいいんじゃないでしょうかと、将来を見据えた、先ほど壇上では10年、20年先と申し上げましたけれども、した方がいいんじゃないでしょうかと、中途半端な合併はしない方がいいんじゃないでしょうかということを申し上げました。

その結果が、ああいう1市5町という案が出たわけでございますが、そのことについては、きょうは申し上げませんが、それが1点と、もう一つは、行政区域が大きくなったら、柴田議員と議論するつもりはございませんが、大きくなったら、そこにお住まいの方々のいろいろな住民福祉とか、細やかな施策とか温かみとか、そういうものが薄れてくるんじゃないかなという心配があるわけでございますが、私は、これは議会も含めた、私ども行政に携わる者の一つの大きな姿勢の問題だと思えます。やり方さえきちんとしておけば、そういうことはない。また、そういうことがないような形の施策をやっていくのが、私どもの責任であるというふうに私自身は考えていますので、よろしく願いいたしたいと思えます。

議長(鳥居直記君) 次は、8番吉原日出雄議員。

〔吉原日出雄君登壇〕

8番(吉原日出雄君) 皆さん、おはようござい

ます。

自民クラブ、吉原日出雄でございます。

質問通告に従い、市政一般質問をさせていただきますので、市長及び関係部長の答弁につきましては、前向きな答弁を希望するものであります。

まず最初に、常盤・出島地区に関してであります。

平成15年度完成目標に進められております一般国道324号出島バイパスが着々と工事も進み、開通される予定ですが、田上より新地まで、最後のトンネルが約2.9キロメートルと聞いております。現在使用している西山トンネルよりも長い距離であると思えます。まさしく長いトンネルを抜け、出てきたところに位置するのが出島・常盤地区であります。高速道路を利用され、長崎にお越しになるほとんどの方々が一番最初に目にするのが、この常盤・出島地区の光景になるわけです。いわゆる長崎の第一印象の顔ともいえると思えます。そして、国宝大浦天主堂を初めグラバー園がある南山手の洋館群より、本市が積極的に復元されております出島や出島ワーフ、そして元船地区に流れる人の通りとしての役割等を考えると、重要な場所であり、長崎観光の大動脈に匹敵すると言っても過言ではないと思えます。

本市としても、真摯に取り組む必要があるわけですので、現在の進捗状況と今後の取り組みについてお尋ねいたします。

次に、観光行政についてであります。

一昨年(1999年)の1月から15カ月間のロングランで開催された日蘭交流400周年記念事業は、平成9年から減少傾向にあった観光客数に一定の歯どめをかけることができましたが、本年は、その反動に加え、関西、関東に大型二大テーマパークがオープンしたことにより、当初から本市観光を取り巻く状況は厳しいものが予想されておりました。

今日、観光の形態が団体から個人・グループに変化し、旅行者のニーズも「いやしの時代」とも称され、また21世紀は、グリーンツーリズムに象徴される自然、環境、空間及びゆとりを求めて旅をする時代の中で、当然ながら、このような観光をめぐる状況変化に応えられない観光地は、観光都市間の競争には生き残れないと言っても過言ではありません。

これまで本市は、異国情緒、夜景、平和をイメー

ジした観光をPRし、観光客を迎え入れてまいりました。しかしながら、今日、本市を訪れる多くの観光客にとって、異国情緒のイメージが残念ながら薄れているように思うのは、私だけでしょうか。観光地であるがゆえに、イメージを変え、新しいコンセプトを打ち出すには、相当の時間と情報の発信が必要と思われるが、私は、あえて21世紀のこれからの新しい観光に向けて取り組む必要があるのではないかと考えます。

私は、異国情緒をあえて否定するものではありませんが、これからの長崎には、主要な観光施設であるグラバー園も、高齢者や障害者等にも配慮した快適な園路整備が整い、四季折々の花でくつろげる新生グラバー園も先日オープンいたしました。また、フリーマーケットや青空市場など、自然を満喫しながら1日を過ごせるあぐりの丘があります。そのほかにも、本物の歴史が体験できる出島、中国にゆかりの深い唐人屋敷の顕在化など新しい取り組みが期待されます。

そして、長崎には、観光地として一番重要な観光客に対するもてなしの心が醸成されつつあります。旅をする人は、その地に住んでいる人、あるいは旅で出会った人との出会いを大切に、再び訪れてみたいと思う人も少なくありません。また、私の好きな言葉に、「余情残心」という言葉がありますが、余る・情け・残る・心と書くんですが、皆様ご承知の一期一会というのが人との出会いなら、この余情残心は、もう一度、再びという思いになる意味だそうであります。初めて訪れた土地で温かく迎えられた思いは、生涯忘れることもなく、もう一度訪れてみたいともとらえることができ、見知らぬ土地での人と人との触れ合いの大切さを感じると思います。

私は、そのような意味で、これまでの観光イメージから、これからの観光にふさわしいイメージの創出、あるいはコンセプトづくりを検討すべきと思いますが、市長の見解をお尋ねいたします。

次に、修学旅行対策についてお尋ねいたします。本年9月に発生した米国同時多発テロは、全世界に大きな波紋を起し、特に、航空会社を初め観光業界には影響が出ておりますことは、皆様ご承知のとおりであります。先月5日に開催されました観光振興対策特別委員会でも、この問題が取り上げられ、旅行代理店や宿泊施設の代表者の方々

から、テロ事件に伴う本市観光客の動向が詳しく報告されております。

私は、今回の事件により海外及び沖縄から多くの修学旅行の振り替えが発生し、本市も多くの修学旅行を迎えることになったことについては、決して手を挙げて喜ぶわけではありませんが、少なくとも観光関連事業者にとって、厳しい状況に一定の効果が出ていることは事実でありますので、ぜひ、この機会を逃すことなく、修学旅行対策を講じる必要があると思いますが、市長の見解をお尋ねいたします。

次に、修学旅行における体験学習の取り組みについてお尋ねいたします。

本市は、他県にない特有な体験学習として、牧島におけるペーロン体験、グラバー園での体験籠踊り、また本年度は、食文化を取り入れたチャンポンづくり、また11月には、商店街の協力による職場体験など、積極的に取り組んでおられます。このことにつきましては、協力していただいております関係各位に対しまして、敬意を表するところであります。しかしながら、今後の修学旅行は、来年度から小中学校が、平成15年度から高校が「総合的な学習の時間」として位置づけ、体験学習がこれまで以上に本格的になってくると聞いております。

そこで、本市も体験メニューをふやし、修学旅行の誘致を有利に取り組む必要があると思いますが、私は、観光振興対策特別委員会の一人として、次の提案をいたします。

まず、北海道に次ぐ漁獲量を誇る水産県として、ぜひ長崎魚市を活用した体験学習を検討すべきと思います。例えば、毎朝5時に開始されるせりの見学と新鮮な魚のおろし方を体験し、自分で調理した料理を食べる、あるいは広大な魚市の見学や長崎魚市で取り扱う魚等について説明を受けたり、長崎魚市の周辺には長崎県総合水産試験場などもあり、水産県として、特有の体験学習が期待できるとともに、水産県長崎の宣伝にもつながるものと思いますが、体験学習として取り組めないか、市長の見解をお尋ねいたします。

次に、広域観光への取り組みについてお尋ねいたします。

観光客の多様なニーズや高速道路網の整備に伴い、観光客の行動範囲も広がることから、今後ま

すまず周辺の観光地と連携した広域観光への取り組みが必要と思われます。現在、本市は、小浜町及び島原市と協議会を設置し、今議会の冒頭に、市長より報告がありましたように、中国・韓国への誘致宣伝活動を実施されておりますが、現在の状況は、残念ながら宣伝活動にとまり、旅行エージェントの具体的な商品に結びついていないように思われます。今後、どのような取り組みをなされようとしているのかお尋ねいたします。

次に、フィルムコミッションについてお尋ねいたしますが、本年3月の定例市議会において、同僚の深堀議員が質問されましたフィルムコミッションの取り組みについては、当時の観光部長から、フィルムコミッションの設立の必要性は認めつつ、長崎県が関連予算を計上しているので、連携を図ってまいりたいとの答弁がっております。

私は、観光地長崎の宣伝の方法として、各種誘致、宣伝活動や長崎ランタンフェスティバル等でのテレビ、ラジオ及び新聞等への掲載は、限られた予算においては、効果を含め相当厳しいものがあると思います。フィルムコミッションの設立は、全国の観光地で検討され、観光宣伝上極めて有効な手段として、多くの自治体が積極的に取り組んでおります。

本市といたしましても、ぜひ積極的な取り組みに期待するところでありますが、現在の進捗状況についてお尋ねいたします。

次に、中央卸売市場の運営についてお尋ねいたします。

先般、行政視察で和歌山市の市場に行ってみました。市場内情報管理システムの見学であります。そこでいろいろとお聞きし、ぜひ長崎市場も前向きに取り組む必要性を感じたのであります。それは、消費者、生産者、出荷者を初め卸売業者、仲買、小売、そしてまた開設者に至るまで、商品の安全性、品質の確保や経営体質の強化につながると思います。情報化時代の現代、ネットワークにて地域の特産品の紹介等を積極的に推進すべきだと思います。この事業には、九州農政局生産流通部企業流通課が平成13年度を初年度とし平成22年度を目標とする中央卸売市場整備計画を押し進められている補助事業とも聞いております。現在、九州地区内の市場整備事業実施完了及び実施中の市場が4市場、そして同事業実施計画中の市場が

9市場とも聞いております。ぜひ本市におかれましても、前向きに取り組む必要性を感じますが、どのように取り組まれるのかお尋ねいたします。

最後に、場内の施設整備についてであります。平成12年度より、駐車場及び通路舗装改修事業が行われておりますことについては、一定の評価をするものであります。市場全体の進捗状況とあわせて、整備をされる際の基本的な考え方をお尋ねいたします。

以上、壇上よりの質問を終わらせていただきます。
＝(降壇)＝
議長(鳥居直記君) 市長。

〔伊藤一長君登壇〕

市長(伊藤一長君) 吉原日出雄議員のご質問にお答えをいたします。

まず、観光行政についてでございますが、21世紀の観光長崎の基本的な考え方でございますが、本市の平成12年の観光客数は、吉原日出雄議員ご承知のとおり、本年3月に終了いたしました日蘭交流400周年記念事業の効果などによりまして、平成8年以来、4年ぶりに増加に転じたところであります。しかしながら、長期的な景気の低迷あるいは観光客のニーズの多様化のほか、ことしの3月末には大阪でユニバーサル・スタジオ・ジャパン、9月4日には東京ディズニーシーの二大大型テーマパークが開業したことなどにより、長崎観光を取り巻く環境は、大変厳しいものがあるかと思えます。

長崎市は、中国との深い歴史的な関係、出島を通じての西洋文化とのかかわり、自然と人々の生活によってもたらされた美しい夜景、そして被爆都市としての平和を希求する国際観光都市としての取り組みなど、異国情緒、夜景、平和などをキーワードとして、観光客の誘致に積極的に取り組んできたところであります。

しかしながら、今後は、本市が国際観光都市として発展するためには、地域イメージとてなしの心の醸成、都市基盤の整備、地場産業の活性化、市民活動などを含めたまちづくりと一体となった観光地づくりが課題となっております。この中で、議員ご指摘のもてなしの心の醸成につきましては、長崎市第三次総合計画前期基本計画の中でも、主要事業として位置づけておりまして、観光客に対してきめ細やかなサービスを提供し、市民と一体

となって受け入れ体制を整備することといたしております。

主な具体的な事業でございますが、ボランティア観光ガイド事業を平成7年度から実施しております。これは長崎市民によるボランティア観光ガイドを育成し、本市を訪れる観光客に対し、その利便性を図り、観光を楽しんでいただくとともに、市民にもてなしの心の醸成を図ることを目的としております。平成13年度は、近年の旅行形態が個人・グループ化していること及び修学旅行のグループ別自主学習がふえていることに伴いボランティア観光ガイドの利用が増加していることから、そのニーズに対応するために、第4期生の公募、研修を行いまして、現在119名が登録をしているところであります。

また、手ぶらで長崎観光サポート事業を平成12年10月から実施しております。これはJR長崎駅から登録宿泊施設まで手荷物を無料配送し、観光客へのサービス向上と観光長崎のPRを行い、イメージアップを図ることを目的としております。受付場所をJR長崎駅構内に設けまして、午前8時30分から午後2時までを受付時間とし、午後5時までに登録の宿泊施設に手荷物を届けることにいたしております。

さらに、毎年、社団法人長崎国際観光コンベンション協会、長崎商工会議所との共催によりまして、市内の宿泊施設、観光施設、お土産品店などの観光関連事業所の管理者と従業員の皆様方を対象に、観光の現状を把握していただくとともに、接客サービスの資質向上を目的とした接客サービス講習会を開催しております。観光客がもう一度長崎を訪れてみたいと思っていただくような、もてなしの心の醸成を図っていくことが長崎へのリピーター客の確保につながっていくものと考えております。

今後とも、人こそ最大無限のメディアであるとの認識のもと、他都市にはない長崎人のもてなしの心を議員ご指摘のように大切にしていまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

次に、観光行政の中の修学旅行対策でございますが、9月の米国の同時多発テロ発生に伴い、10月27日現在で109の学校が修学旅行の訪問先を沖縄県及び海外等から長崎県へ変更しており、その

うちの約9割が長崎市への変更となっております。沖縄等の皆様方におかれましては、大変なご苦労がある中での長崎市のこういった状況でございます。このテロ発生に伴う緊急の行き先変更により、本市を訪問する修学旅行の皆様には、ぜひ今後とも、沖縄関係の方々には大変申しわけないんですが、長崎への訪問を継続していただくように、本市の修学旅行受け入れ宿泊施設の皆様にも、ご協力いただきまして、もてなしの心を持って対応したいというふうに考えておるところでございます。具体的には、修学旅行生とじかに接する宿泊施設関係者との意見交換を行い、この機会に長崎のよさをアピールすることを確認したところであります。

さらに、長崎市旅館連合会、長崎ビジネスホテル協会、長崎公認民宿組合等で組織いたします長崎市宿泊施設協議会を開催し、受け入れ体制の充実など、今後の対応についての協議を行ったところであります。協議の結果、ホテル、旅館の従業員及びタクシー運転手等に対しまして、受け入れ体制強化のための接客サービス講習会を早急に実施することになりました。

また、本市では、これまでに変更が決定した学校75校とその手配を行った旅行代理店の方々に対しまして、お礼状と本市の修学旅行に対する取り組み等を紹介した観光情報を送付するとともに、修学旅行受け入れ宿泊施設に対しましても、受け入れの接遇について、特段の配慮をしていただくよう文書により依頼したところであります。

また、あわせて長崎遊学券及びボランティア観光ガイドの活用についての案内も行っております。

変更されました学校におきましては、今回の訪問の印象が来年、さらには、今後の長崎訪問につながるものと思いますので、今後とも、受け入れにつきましても、官民一体となって、最善の対応に努め、長崎のよさをアピールしていきたいと思っております。

次に、体験学習の取り組みについてお答えをいたします。

多様化する修学旅行のニーズの中、体験学習の実施には、特に近年、強い要望がっております。そのような中、現在、長崎市におきましては、修学旅行の訪問目的の大きな要因となっております平和学習の被爆体験講話を初めガラス工芸、ハタ

づくり、ペーロン体験や龍踊り体験などを実施しているところであります。長崎の伝統行事でありますペーロン体験につきましては、おかげさまで年々、増加をしております、本年度におきましても、約2万人の修学旅行生に体験していただいております。

また、昨年度からグラバー園で実施しております体験龍踊りにおきましては、本年度、修学旅行生が多い4月から6月、そして9月から11月の期間に、子龍あるいはベスト、楽器などを準備いたしまして、多くの修学旅行生に長崎の伝統芸能を体験していただいたところであります。

さらに、あぐりの丘で実施しているカステラづくり体験に加えまして、本年度試行的に実施いたしましたチャンポンづくり体験の結果をもとに、長崎の食文化におけるメニューの充実を図っていきたいと考えております。

吉原日出雄議員ご指摘の長崎魚市場は、水産県長崎を代表する施設でありまして、産地市場として多くの水産物を全国に発送するとともに、施設規模、水揚げ量、魚種の豊富さは日本有数であります。現在、一般観光客の皆様にも、この長崎魚市場を開放し、市場の見学のほか、水揚げされた魚介類の販売を行い、長崎の伝統の味、しゅんの味を楽しんでいただいております。本市におきましても、多くの観光客にお越しいただくよう長崎魚市場の宣伝に努めているところであります。

本市におきましては、修学旅行生の体験学習の素材として、長崎魚市場を中心とした水産業あるいは造船業などの基幹産業を生かせるものが数多くあるというふうにご考えております。これまで、庁内の関係部局と協議を行い、食あるいは史跡めぐり、環境などの体験素材などについての情報提供を受けており、現在、関係団体との調整を行っているところであります。

議員ご提案でございました朝の魚市場見学あるいは魚のさばき方などの体験も含め、幅広い分野での体験学習メニューの整備に向けまして、今後とも、関係団体と協議を行い、長崎を訪問する修学旅行生に、より充実した長崎らしい体験学習メニューを提供してまいりたいというふうにご考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げたいと思っております。

私の本壇での答弁は以上といたしたいと思いま

す。

他の件につきましては、それぞれ所管の方からお答えいたしますので、よろしくご願ひいたします。＝(降壇)＝
企画部長(原 敏隆君) 常盤・出島地区の整備の進捗状況と今後の取り組みについてお答えいたします。

ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想地区内の常盤・出島地区の進捗状況と今後の取り組みについてでございますが、ご承知のとおり、本構想は、活力と魅力あふれる都市再生を目指し、長崎市の都心・臨海地帯としての松山運動公園から松が枝ふ頭に至る南北5キロメートル、約112ヘクタールを対象に再開発を進めるもので、現在、元船地区及び常盤・出島地区を中心に先行プロジェクトとして、長崎港内港再開発事業の整備が行われております。

元船地区においては、五島などへの長崎港旅客ターミナルビルや海や陸の物流機能を拡充するための倉庫などが整備され、昨年4月には、同地区の中央部に賑わいの空間の核として夢彩都がオープンしております。

常盤・出島地区は、出島バイパスの出口に面しており、高速道路を利用して長崎市を訪れる観光客などの一番最初に目に入る地区でございます。この地区は、賑わいと潤いのある交流拠点として整備されることになっており、臨海型商業施設「出島ワーフ」が昨年オープンし、また、出島岸壁には、ヨットや中型帆船などを一時係留するための(仮称)出島ハーバーの建設が予定され、平成14年4月の部分供用開始を目指しております。

また、緑地は、市民や観光客が心安らぐ緑と水の空間として整備され、長崎の新しい顔となるよう平成15年度の完成を目指しております。具体的には、芝生公園、野外劇場、森の中の音楽堂など約3.7ヘクタールからなる海辺の緑地公園のシーサイドパークが、また、自然石を用いた運河形式の水路や、その水路を利用した桜とヤマボウシの並木道、座れる彫刻のある広場や小道、花の小島などからなる運河沿いの散歩道である水辺のプロムナードなどが計画されております。

さらに、市有地と水路を挟んだ県有地に新しい県立美術館が計画されており、すぐれた美術品の鑑賞・創作活動・作品発表などの場として、市民、

県民が気軽に利用でき、新たな長崎文化を創出する美術館を目指し、平成17年度の開館を予定しております。

美術館予定地に隣接している交流拠点地区3ヘクタールにつきましては、当初の構想では、コンベンション施設やホテルが予定されていましたが、構想以来10年以上が経過し、社会情勢も変化していることから、その土地利用について見直すこととし、平成10年度にアーバン構想推進会議が設置され、将来の長崎にとって何が一番大切であるかとの観点のもとに、県民、市民が憩い、観光客も集い、人々が交流して賑わう場所としてどのような活用があるかについて検討が行われ、具体的な案が提出されております。

この地区につきましては、周辺部において、常盤・出島地区の緑地整備を初め女神大橋、出島バイパスなどの複数の公共事業が進んでおり、近い将来、情景・動線が変化することになり、具体的な条件が整った時期に、構想を踏まえた民間のすぐれた開発につながっていくものと考えております。

今後は、臨海部の再生から、次第に長崎駅周辺の陸域部の再整備に移っていくこととなりますが、松が枝から長崎駅周辺に至る環長崎港地域は、長崎の顔と言うべき地域であり、後世に誇れるすぐれた景観を備え、人々が賑わい集う場所とするべく県とも連携を図りながら整備を進めていく必要があると考えています。

私どもといたしましては、長崎県・長崎市都市づくり連絡会議や、その専門的協議機関である環長崎港地域アーバンデザイン会議などで協議し、県市一体となって積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

観光部長(三浦勝夫君) 広域観光の具体的な取り組みについてお答えいたします。

現在、より効果的な観光客誘致活動を推進するため、普賢岳登山解禁を契機に発足いたしました長崎市、小浜町、島原市の行政と観光協会などで構成する長崎・小浜雲仙・島原観光ルート連絡会において、国内外の観光客誘致を目的に広域観光の推進に取り組んでおります。

特に本年度は、市議会からもご参加いただき、6月に、昨年 のピザ解禁で多くの観光客の来訪が予想されます中国へ、また10月には、来年のワー

ルドカップサッカー大会開催を期に、今後ますます交流が深まると考えられます韓国へ、それぞれ観光宣伝隊を派遣いたしまして、旅行代理店の皆様を対象にした観光説明会を実施し、長崎・島原半島地区の魅力をアピールし、旅行商品の企画を依頼したところでございます。

このほかにも、県内の広域観光の取り組みといたしまして、長崎半島の海・グルメをキーワードに国内の観光客の誘致を図るため、本市と周辺5町、関係4団体で、長崎南部観光誘致協議会を組織しております。その中で、長崎半島の観光の魅力をアピールし、旅行商品の企画に役立てていただくために、九州内の旅行代理店企画担当者の招待事業やマスコミを活用いたしました宣伝活動を積極的に実施しております。

また、本市と西彼杵郡15町からなる長崎・西彼地域観光推進協議会では、長崎・西彼地域の魅力あふれる観光地づくりを推進しております。

そのほか、福岡・佐賀・長崎3県の行政や観光関連団体から構成しております西九州国際観光ルート協議会を初め本市、熊本市、大分市、別府市で構成しております九州横断ルート観光都市協議会や九州内の観光関係の市町で構成しております九州観光都市連盟と連携して、国内の観光客はもとより、今後多くの観光客の来訪が予想されますアジア観光客の誘致宣伝活動を積極的に実施しております。

今後とも、さらに県内外の都市との連携を図りながら、広域観光の推進に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、フィルムコミッション設立の進捗状況についてお答えいたします。

フィルムコミッションにつきましては、宿泊・食事などの直接消費や関連ビジネスの育成と雇用促進などの経済効果、都市の知名度・イメージの向上による観光客の増大など観光振興、地域振興をもたらすものと考えております。昨年、本市がロケ地となりました映画「長崎ぶらぶら節」では、市と民間が一体となって協力・支援体制をつくりました。撮影場所の紹介、資料の提供、撮影時の動員などを行ったところでございます。本市といたしましても、映画化により効果的な観光PRが図られる等、フィルムコミッションの設立は必要なことであると考えております。

現在、フィルムコミッションの設立につきましては、長崎県において、県下市町村、観光関係団体、ボランティア団体で組織します(仮称)ながさき観光地映像化支援センターの設立に向け準備を進めております。本年11月には、長崎県、長崎市、佐世保市などの行政と、それぞれの観光協会、ボランティア団体などで構成する設立準備会を組織いたしまして、本年度中の設立を目指しております。

なお、(仮称)ながさき観光地映像化支援センターの概要といたしましては、長崎県観光連盟にフィルムコミッションの総合窓口としての本部を置きまして、データ収集等を実施することになっております。また、各市町村や観光協会は支部組織といたしまして参画し、実際のロケに対する候補地の情報提供、原作やシナリオに出てくる場所の確認、方言や時代考証などの資料提供や監修者の紹介、宿泊施設の紹介・あっせん等の業務を行うことになっております。

今後とも、長崎県と十分に連携を取りながら、フィルムコミッションの設立に向けて取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

商工部長(石崎喜仁君) 中央卸売市場運営について。1点目のLANシステムの整備導入についてお答えいたします。

中央卸売市場は、市民生活に不可欠な生鮮食料品等の流通の円滑化を図る上で、貴重な役割を果たしておりますが、卸売市場を取り巻く環境の変化に対応するため、また、迅速かつ安定的供給を行う観点に立ちまして、必要な機能強化のための施設整備を推進することが課題であり、その強化に向けまして、流通の効率化及び活性化を図り、現在の高度情報化社会に向けた流通機能を高度化する環境整備を促進するものでございます。

このことから、平成13年3月に策定いたしました長崎市第三次総合計画に基づき、高度情報化社会に向けました流通機能を高度化する具体的な施策といたしまして、まず、開設者、卸売業者のコンピュータを接続することにより、情報の迅速化並びにペーパーレス化等を図ることといたしまして、将来的には、仲卸業者等を取り組む計画でございます。

このような状況から、卸売市場内におけるLAN

Nシステムの整備を図る上での前提といたしまして、市場内関係業者の理解を深めることが大事なことであるとの認識から、LANシステムに関する事前の研修が必要でありますので、年度内に研修会を開催するよう現在、準備を進めているところでございます。

2点目の場内の施設整備についてお答えいたします。

市場内の施設整備でございますが、中央卸売市場におきましては、昭和50年7月に開場以来、既に26年を経過いたしまして、施設の至るところで老朽化が目立ってきており、これらの施設の再整備が今後の緊急の課題となっております。

そこで、市場といたしましては、再整備の緊急度の高い施設から、順次、年次計画を立て、整備を行うこととしております。具体的な施設整備につきましては、13年度より、特に、傷みがひどい構内の駐車場及び通路の舗装改修工事を4カ年の年次計画によりまして実施しておりますが、初年度は、最も利用頻度が高い小売業者専用の駐車場及び通路部分から施工いたしております。

今後の施設整備につきましては、本市の財政状況を勘案しながら、それぞれ年次計画を立てまして、再整備を行うことといたしておりますが、施設整備に当たりましては、事前に市場関係業者と十分に協議を行い、公平な考え方のもとに優先順位を決めて再整備を行っていききたいと考えております。

以上でございます。

8番(吉原日出雄君) ご答弁ありがとうございます。

まず、企画の常盤・出島地区に関して再質問させていただきますが、実は、ここに2つの県が出したパンフレットがあるんですが、私が、ちょっと細かいことなんですけれども、気づいたのが、常盤・出島地区の地図が両方載っているわけですが、今、本市が進めております出島の復元ですね、これが落とされているというか、この地図の中に入っていないんですね。確かに、県と真摯に協議をされておるとは思うわけですが、私は、こういうちょっとしたことですが、やはり県市が、その付近の連携が本当にうまくいっているのかどうかという気がいたしますので、この点を1点お尋ねをさせていただきたい。

それと水辺のプロムナード、これについては、運河ができるわけでごさいます、これは、うちの同僚議員、文化の発祥地の議員がよく言われるんですが、イルカでも浮かべて、ひとつ夢のある水辺にしたら親しみがわくんじゃないかということも考えて、やはりこういう地区は、特に市民、県民、もちろん観光客に対してもですが、やはり夢が持てるような場所でないといけないと思うんです。

それと、一番心配なのが交流拠点の用地でございまして、文化的な施設をつくるということが計画をされておりますが、現在のこういう状況であると、なかなか民間の方々の進出というのは難しいと思うんですね。だから、私は、この文化的な施設のゾーンにつきましては、やはり行政がしっかりと主導権を持って、これは、一つ提案ですが、いつも長崎市が県に土地を提供するだけではなくて、たまには県の土地を使って長崎市の文化的な施設をつくるような考えはないのか、この点につきましては、市長から答弁をいただきたいと思えます。

まずは以上です。

企画部長(原 敏隆君) まず、出島が図面に落ちているということでございますが、これは埋立地の中の部分の図面を絵にかいたと思うので、別に意識して落としているわけではないと思えます。そういった意味では、県市共同してやるという部分については、積極的にやりますので、ひとつご理解いただきたいと思えます。

市長(伊藤一長君) 吉原日出雄議員の再質問にお答えいたしたいと思えます。

1点目の常盤・出島地区の中の、特に常盤地区の話だろうと思えますが、水路のところで大浦の方の文化の発祥地の議員さんのご提案等々も含めまして、あの大きな水路にイルカをどうなのかというご提案でございまして、ご存じのように、長崎港も、この何年間か私も見てませんが、小さいイルカが実は入ってきておりましたので、案としては、私もアイデアとして非常にすばらしい夢のあるアイデアだなというふうに思いますが、何せ21世紀が環境の世紀というふうに言われておまして、北松の方の地方自治体で、イルカを一定のゾーンに囲って、そこで楽しんだらどうか、あるいは生態状況を調べたらどうかというふうなこ

とを思案しているというふうなことが、先般報道されておりましたが、考え方としては、私は、いいアイデアだなと思えます。

ただ問題は、こういう環境の問題というのが非常に大切な時代でありますし、そういう生態系の問題も含めて、また、さまざまな団体等もありますので、そういうふうな団体との関連等も含めて、また、あの場所がいいのか、それとも、もう一つは、網場湾の中の網場の方の、ちょっと場所が、あちらの方の、南部の方の発祥の地でございましょうから、そちらの方の場所も水質等の関係もあるので、どういったところで、どういう方法でした方が長崎観光にどうなのかということも、もう一度、吉原議員さんのご提案でございまして、議員さん内部の、そういう精査等も含めて、いろいろなアイデアを出していただければありがたいなと。

といいますが、トラフグなんかの養殖なんかも、これは技術的にも改良されているし、今度、合併する地域、先ほど柴田議員さんの市町村合併の話がございましたが、合併するゾーンでも、トラフグの養殖をしているところが実はあるんです。ところが、それをふ化して、ある程度まで育てるところはありますが、それを今度は持って行って、それを大きくして出荷するまでに育てるところの場所が、どこのゾーンがいいのかなというのを相当苦慮しております、県外に実は出荷しているようでごさいます、こういういろいろな問題が、水の浄化の問題も含めて、今後のイルカの生育の問題も含めてどうなのかなというのが、これだけ海に囲まれた長崎の場所でございますから、今後の課題として、ぜひ私も勉強いたしますので、鋭意、そういうふうなご意見とか情報とかありましたらお願いさせていただきたいと思えます。

それから、2点目のアーバン区域内で、県にばかり土地を取られて、取られるというのは、お互いに話し合いで円満に、私もこういう人柄でございまして、円満に話し合いながら着地点を見出しているわけでありまして、市の方から何かアクションを起こすべきではないかと、しかも、県有地内のアーバンの区域内でアクションを起こすべきではないかというのは、私も理解はできます。

きょうは、ちなみに、地元紙では、昨日の県議

会の一般質問を受けた形で、旧魚市跡地の整備の問題が出ておりましたし、長崎市役所の庁舎をどこに建てるのか、あるいは市民病院をどうするのかということも、恐らく、この何年間かのうちに相当な議論があって、恐らく市民の皆さん方を巻き込んだ形の一定の常識的な着地点を見出す時期に私は来るのではなからうかなと思いますので、そういうときに、今、吉原日出雄議員さんが指摘されたこと、そのエリア等も含めた形の、特に長崎駅一帯の方が、今、旭大橋の問題も含めまして、どういうふうな形で、もう一度、絵をかき直すのかどうなのかということが、旧魚市跡地の問題も含めて、これからもう少し時間がかかるのではないかなと思います。

そういう問題を見据えながら、ぜひ私どもも議会の皆さん方とよく協議をしながら、市民のご意見を聞きながら、県との働きかけをしたいというふうに考えていますので、よろしくお願ひいたしたいと思います。

8番(吉原日出雄君) 企画部長に1点だけ。

実は、意識的に載っていないのではなくて、逆に、こういうのには、私は意識的に載せるべきだと思うんですよ。というのは、常盤・出島地区の地図がありながら、長崎市が一生懸命に復元をされているその出島のところもくっきり入っているわけですから、逆にここは、長崎もちゃんとやっているんですよというのを、私は、こういうやつにも載せるべきと、そういうことが、また、後の観光PRにもつながってくるのではないかなということをご指摘したいと思います。

それと、観光につきましてですが、実は、こういう言葉がございます。「今まさしく天の時、地の利は人の和に如かず」と言いますが、まさしく観光行政につきましては、今やらなくてはいけないと思うんであります。それと、今やらなくてはいけないというのは、先ほど壇上でも申し述べましたように、たくさんのいろいろな状況というのがございました。大体、悪い状況から、やや日差しが若干、長崎の方に向いているかなというような状況でございますので、私はですね、観光部長の判断で、これは長崎観光のためになるというようなことであれば、岩につめをたててもやるような覚悟でやっていただきたいと思いますので、観光部長につきましては、いわゆる意思の確認を

させていただきたいと思っておりますので、ご答弁をお願いいたします。

観光部長(三浦勝夫君) 今、吉原議員が言われましたように、私たちも今、積極的に体験学習を含めて、いろいろなゾーン化も含めて、一生懸命やっておりますので、期待していただきたいと思います。

よろしくお願ひします。

8番(吉原日出雄君) それと、商工部長にですが、実は年内に事前の研修会を開催していただくという大変前向きなご答弁をいただきまして、ありがたく思っておるわけでございます。

実は先般、鹿児島島の和泊町というところに行政視察で行ったわけなんですけど、実は、ここは本当にちっちゃな島で7,400名ぐらいの人口の町なんですけれども、ここが花のユリとか花の菊の栽培をされて、これが全国ネットでやっているんですね。生産農家にもLANをちゃんと導入してやっているんですね。それで、すごい売り上げが起きているようでございまして、35億円、花卉だけでですよ。花のユリであるとか菊であるとかというようなものだけでも、35億円年間売り上げを起しているところで勉強させていただきました。

私は、うちの同僚に茂木関係の議員さんいらっしゃいますが、例えば茂木のピワでも、山形のサクランボに負けないぐらいの手法、ただJAさんにお任せをするのではなくて、市場に乗せて、そういうネットをもって全国に発信したら、私は、茂木ピワというものは、山形のサクランボには負けないぐらいの長崎のピワになるのではないかなというふうに思うんでありますけど、その件について、部長の見解をお願いいたします。

商工部長(石崎喜仁君) LANシステムにつきましては、先ほど吉原議員からのお話で、和歌山等も私どもは承知しております。また、国の助成制度等も十分に承知いたしております。

ピワの件につきましては、私が水産農林部におりましたときからの、これは話も伺っておりますので、今後、水産農林部と十分協議しながら、ここらあたりの流通体制も含めまして、LANシステムの中で、どう取り入れていくか、今後、研究してまいりたいと思っております。

以上でございます。

市長(伊藤一長君) 私に指名がなかったわけで

ございますが、関連でございますので、私の方からも吉原日出雄議員のご質問にお答えいたしたいと思えます。

花の件が出たんですけれども、これは私も関係者の方々とも、よくする話ですが、記事としては相当昔、前の記事でございますが、花の消費量が鹿児島がたしか1番で、長崎が2番だというふうな記事が出ておりました。記事として古いと思えます。長崎というのは、本当にすばらしい、大したものだなとも私も思っていましたけれども、花の生産量になりましたら、今、吉原日出雄議員がご指摘のように、その菊とか何とか、そういうふうな花にしましても、あるいは鉢物の花にしましても、あるいは苗物の今、路地にもパンジーとか、いろいろな苗物が出ていますけれども、それにしましても、菊なんかは相当頑張っているんですが、鉢物を含めて苗物に至っては、ほとんど皆無に等しいという形で、本当に、外から持ってきたのを競って、長崎の市民の方々が主にそれを使っていると。そうかと言いまして、近郊のすぐ隣の町に行きましたら、町はお許しいただきたいと思えますが、カーネーションなんかを年間何億円もハウスで栽培しているということ等がございますので、花というのは、やはりこれからの地場産業の新たな切り込みをする、新たな視点に取り組むということも含めて、これは現在取り組んでいる農家の方々だけではなくて、雇用問題等もございましたけれども、新規の分野に新しく行政が議会と一緒に、JAさんとか、いろいろな生産農家の方と一緒にした形で、また、素人の方も結構でしょうから、そういうふうに取り組むというのは、私は、今後大事なことではないかなと、でき得れば来年度の予算編成あたりで何かのそういう取り組み方ができないのかなというふうな考えを私自身持っております。

ビワの件でございますけれども、これはビワというご指摘でございますが、ビワの本数をもっとたくさん植える努力も大事なことはあるし、今、土づくり事業に取り組んでいますけれども、土そのものを、もう少し地力をつけるという問題も大事でありますし、茂木地区の話が出ましたけれども、やはり有害鳥獣、一生懸命育てても、収穫時になったら、いわゆる有害鳥獣からすべてもっていかれたということもありますので、そういう対

策の問題もありますし、梨とか、そういうほかの果樹なんかを育てられないかと、もっと範囲を広げられないかというふうな問題もありますので、この問題も、鋭意、来年度に向けまして、私たち関係者の方と協議をしたいと思えますので、よろしくお願いいたしたいと思えます。

8番(吉原日出雄君) 私の質問は、以上で終わるわけですが、関連で1件やらせていただきます。

〔「関連」と言う者あり〕

議長(鳥居直記君) 31番中野吉邦議員。

31番(中野吉邦君) 観光行政について、関連をさせていただきたいと思えますが、先ほど観光部長からお話がありました九州横断ルートの大分あるいは熊本、また西九州国際観光ルート、これは10何年前からずっとあるんですね。一生懸命取り組まれてても、なかなか長崎の広域の観光には私は結びついていないという気がします。

それと、せっかくことし中国に行かれ、韓国に行かれ、そして長崎の観光の案内にもハングル文字を入れたりしながらやっていっている。そして、来年は、2002のワールドカップを開催される。そういうことから考えてみると、県はもう上海に事務所をつくっていらっしゃる。そこに長崎市は応分の負担をしたんです。この際ですね、やはり全体的に隣の国との韓国との交流を進めるつもりならば、私は率先して、長崎は、韓国に連絡事務所をつくるべきではないかと、そして早めにつくって、全世界からお見えになる2002のワールドカップサッカーを見に来られた世界の多くの皆さんに案内をするために、私はやるべきだと思いましたが、伝え聞きますと、この間の市長さんを団長とした訪問団の中で、韓国側からも、そういうお話があったと聞き及んでおりますが、その辺のところのご答弁をいただければと思えますが、ぜひお願いをしたいと思えます。

観光部長(三浦勝夫君) 中野議員さんの再質問にお答えします。

今の韓国の件でございますが、今、そういう段階で、長崎市から派遣を考えて、今調整中でございます。

もう一つ、別府市の九州横断ルート観光都市協議会、これ確かに中野議員が言われるとおり、毎年、一応話し合いをしています。ただ、今回、雲仙を含めて、温泉を考えておりますので、こうい

うラインでもう一度、そういう温泉ラインといいですか、そういう流れで、長崎市だけで考えていたんですけども、広域関係で考えておりますので、今後、そういうふうに拡大してやっていきたいと考えております。

以上でございます。

31番(中野吉邦君) わかりました。その九州横断のそういう3県ルート、やはり温泉という共通のテーマでやっていくのも、私はいいことだと思います。ただ、今までは、何となく3つで互いに負担金を出し合って、どうしようかという形だったので、ぜひ、そういう意味では、長崎市も温泉と言えば、2カ所、3カ所あるんですか、市内に。そういう意味では、どんどん売っていただきたいというふうに思いますが、ちょっと広域観光のことで、ぜひ今、観光部長からお話がありましたような、この機会を逃さずに、私はやっていただきたいというふうに思いますが、そのときの団長で行かれた市長さんは、この件について、今、どのようなお考えを持っていらっしゃるのかお答えいただければというふうに思います。

市長(伊藤一長君) 中野吉邦議員の関連質問にお答えいたしたいと思います。

確かに、先般、私が団長、鳥居議長さんと吉岡島原市長さんが副団長という形で議員の皆様方、民間の方々と一緒に韓国に行ったときに、釜山でその話がございました。それで、私も実は勉強不足だったのでございますけれども、先般、米国のセントポール市の市長さん、コールマン市長さんも長崎にお見えになったんですが、行政同士の姉妹都市提携が日本・アジア地域で1955年ですか、長崎が初めてですよということは、既に私も承知しているんですが、民間レベルで実はライオンズクラブというのがございまして、長崎のライオンズクラブと釜山のライオンズクラブとのいわゆる姉妹クラブ提携というのが、これは日本で初めてだそうです。

そういうことも含めて、いわゆる長崎は、釜山とかソウルとか、そういうふうな交流をしているんですけども、そういうふうな前からの日本で初めてライオンズクラブ同士の提携をしたということも含めて、長崎側の方の熱意があれば、熟してくれば、釜山に何らかのそういう行政の機関の足かりをつくられたらどうかと、自分たちも何ら

かのお手伝いをするのは、もちろんこれはやささかではありませんよという温かいご提案がございました。ありがたいことだなと思います。

また、先般実は、釜山の方の韓日友好の観光協会の会長様も、長崎にその後お見えになりまして、アジア都市間国際交流フォーラムが長崎でありましたときにも、実は、その種の発言がっております。あって、どこの都市でもしていいんだけども、何だったら一番近いから釜山にその種の機関を持ってこられたらどうですかと、それを足がかりにして、さらに友好を深めるのは大事なことでないですかという指摘があったようであります。私は、ありがたいことでありますし、大事なことでありますし、関係者の方々と協議をしながら、これは一つは、県との絡みもございまして、長崎県の市町村振興協会との絡みもございまして、そちらの方から実は、ソウルとか上海とかには若干の予算も組んでいるという絡みもございまして、そういうところも今から鋭意、協議しながら、できれば実現の方向に私どもも頑張りたいというふうに思いますので、議会の皆様方のご理解をよろしくお願いさせていただきたいと思います。

以上でございます。

議長(鳥居直記君) 休憩いたします。

午後は1時から再開いたします。

= 休憩 午前11時57分 =

~~~~~  
= 再開 午後1時0分 =

副議長(江口 健君) 休憩前に引き続き会議を開きます。15番板坂博之議員。

〔板坂博之君登壇〕

15番(板坂博之君) 質問通告に従いまして、順次、質問いたしますので、市長並びに関係理事者の明快な答弁を求めるものであります。

初めに、長崎市の基幹産業である観光をいかに振興させるかが、本市の生命線であるとの強い思いから、第1番目の質問通告、観光振興策についてお尋ねいたします。

長崎市の観光動向のパロメーターとなる観光客数について見ますと、昨年は日蘭交流400周年記念事業などにより、減り続けていた観光客数がようやく上向き、平成11年度と比較して1.5%増加しております。しかしながら、ことしは、大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンや東京ディズニー